様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日　2025 年　1 月　14 日

１．職名・氏名　　准教授・池本　裕行

２．学位　　学位　博士、専門分野　農学、授与機関　京都大学、授与年　2013 年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 日本経済史　（4 単位）　2 年生　担当コマ数 30 コマ
②内容・ねらい 江戸時代から現代までの日本経済の歴史と特色について講義を行うことで、その基礎的な歴史過程を説明できるようになるとともに、日本経済を長期的（歴史的）視点で考える姿勢を身につけることを目指す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義では、事前にその内容を記したレジュメを配布したが、昨年度までと同じく、集中して説明を聞くことができるように、空欄は設けなかった。毎回講義の最後に時間をとって課した出席レポートは、翌週までに採点し、翌週の講義冒頭で優れたレポートを紹介したうえで、ポイントの説明や質問への回答を行った。内容の理解を深めるため、写真等のビジュアル資料も用いた。また、日本経済史への関心を高めてもらうために、庶民の生活や環境と経済の関係のように身近なテーマを扱う回や、特任講師に講義をしていただく回を設けた。 【ゲストスピーカー　2 人】
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 基礎ゼミ（2 単位）　2 年生　担当コマ数 15 コマ
②内容・ねらい 入門レベルの文献の輪読を行い、大学での今後の学習において必要となる、本や資料からレジュメを作成し、発表するスキルの習得や、歴史研究の方法論について理解を深めることを目指す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 テキストの輪読では毎回報告担当者を決めてレジュメを作成することにしたが、その際には丸写しにならないように、またレジュメ作成の経験がほとんどないことを踏まえて、分量の上限を定めた。さらに、毎回レジュメのまとめ方やレイアウト等の改善点を指摘した。テキストの 1 つとして、歴史研究の基礎を扱ったものをとり上げ、史料の性質や史料調査、歴史研究の方法論に対する理解を促進した。さらに、映像資料を用いることでより歴史研究への理解を深めることを目指して、DVD も教材として併用した。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 外書講読（2 単位）　2 年生　担当コマ数 15 コマ
②内容・ねらい 日本経済史に関するテキストを分担して輪読を行い、英語の文章を正確に読んで、理解できるようになることや、日本経済の歴史に関する専門用語を理解できるようになることを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
日本史を研究している海外の研究者が執筆したテキストを輪読したため、通常あまり見慣れない使われ方をしている用語・表現が出てきた。そのため、文法だけでなく、そうした用語・表現にも注意しつつ和訳を丁寧に確認した上で、内容の補足説明を行うようにした。また、毎回のレジュメに対して、まとめ方やレイアウトの改善点等を指摘した。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
演習Ⅰ（4 単位）　3 年生　担当コマ数 30 コマ

②内容・ねらい
日本経済史に関するテキストの輪読と、各自の研究テーマに関する報告を行うことで、日本経済の歴史について理解を深めると同時に、先行研究を踏まえて自分の研究テーマを見出すことを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
テキストの輪読では、その丸写しにならないようレジュメの分量について上限を定めたり、報告者以外にも積極的に意見を述べることを促したり、座長を設けたりして、発表力、表現・発言力の養成を図った。また、就職活動や次年度の卒業論文・研究に向けて、自分の意見を文章化して相手にわかりやすく伝える能力を向上させるために、毎回一定量の感想を書くことを求め、それに対してコメントをするということも行った。なお、テキストは受講者の関心が高いものを選ぶことができるように、受講者と相談して決めた。さらに、グループに分かれてテーマを決めて研究を行い、それを 4 年生も参加した報告会で発表することで、研究の流れを実感できるように努めた。その後、自分の関心のあるテーマの文献を読んで報告し、次年度の卒業論文・研究に速やかに取りかかることができるように準備を整えた。
さらに、テキストで学習するだけでなく、史跡等を実際に見て学ぶために、学外でのフィールドワークとして、永平寺や北前船主の館右近家、平泉寺、瀧谷寺などを見学した。
【フィールドワーク等　6 件】

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
演習Ⅱ（4 単位）　4 年生　担当コマ数 30 コマ

②内容・ねらい
「演習Ⅰ」を通じてゼミ生が見出した研究テーマの個別研究報告とテキストの輪読を中心に進め、自らの研究テーマについて、史料調査・分析を行い、卒業論文・研究としてまとめることや、その研究内容を他者にわかりやすい形で発表できるようになることを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
ゼミ内で行う卒業研究発表会に向けて、各自の研究テーマについて調査・分析を進め、定期的に進捗状況や新たに調べた内容を報告するようにした。その際、お互いの研究に対して意見を述べることを求め、発表や議論の経験を積めるように心がけた。また、テキストの輪読では、歴史学の最新の研究成果とともに、卒業論文・研究を進める上で役に立つような、歴史研究の分析手法を学ぶことができるテキストや、社会人として働く際に参考となるテキストを選んだ。そして、自分の意見を文章化して相手にわかりやすく伝える能力を向上させるために、毎回一定量の感想を書くことを求め、それに対してコメントをするということも行った。
さらに、史跡等を実際に見て学ぶために、学外でのフィールドワークとして、越知山大谷寺、彦根城、富山城、福井県立若狭歴史博物館などを見学した。
【フィールドワーク等　6 件】

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
経済学（2 単位）　1 年生　担当コマ数 1/15 コマ
自らの担当回に加えて、本科目の取りまとめも担当した

②内容・ねらい
経済学科教員がそれぞれの担当する専門科目の概要について、オムニバス形式で講義を行うことで、経済学に関する基本的な考え方を理解したり、経済学が現実を見る上でどのように役立っているかを理解したりできるようになることを目指す。
池本の担当回では、経済史とはなにかを学んだうえで、江戸時代の新田開発を事例として、人間の経済活動と環境の関係を理解することを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
池本の担当回では、1 年生向けの一般教育科目という科目の性格を踏まえて、経済学部以外の学生にも理解しやすいテーマをとり上げた。また、より理解度を高めるため、内容に関係するグラフや絵図も積極的に用いた。
取りまとめ担当者としては、本科目は全学の学生に対して、経済学の基礎概念を幅広く理解してもらうことを意図し、経済学部の学生に対しては、それに加えて学部教員とその専門分野の紹介を兼ねていることを意識した。具体的には、スムーズな運営を図るべく、講義順序等の検討、シラバスの作成、初回学生向け説明資料「経済学の進め方について」の作成、教員向けマニュアルの作成のほか、講義担当者への事前連絡、成績のとりまとめなどを行った。とくに成績のとりまとめにおいては、講義担当者間で評価のバラツキがないよう検討を重ねた。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
日本経済史特論（2 単位）（大学院）　担当コマ数 15 コマ

②内容・ねらい
近年刊行された、近世の農山漁村で暮らした人々の生活に注目した専門書をテキストとして輪読を行い、日本経済で起こっている問題について、歴史的視点から考察できるようになることや、歴史研究の分析手法・史料調査の方法について理解することを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
受講者が少数であり、また留学生も含まれていたので、受講者の関心に即したテキスト（近世の気象災害と地域社会の対応を論じたもの）を選び、用語・内容の補足説明や質疑応答を丁寧に行うことで、その理解を促進した。

(2)その他の教育活動

2024 年 7 月、就職活動を支援するため、キャリアセンターの就職アドバイザーに 3 年生のゼミに来てもらい、就職活動についての説明会を実施した。
2024 年 12 月、就職活動を支援するため、ゼミの 3 年生が社会人として働く卒業生に就職活動体験について相談する就職相談会を実施した。

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 【0 本】
②学術論文（査読あり） 【0 本】
③その他論文（査読なし） 【0 本】
④学会発表等 ・池本裕行「北陸農村における天保クライシスの実態－越前国大野郡を事例として－」第 14 回北陸地域政策研究フォーラム、2024 年 2 月（単独発表） ・池本裕行「北陸農村における天保クライシスの実態－越前国大野郡を事例として－」（ポスター報告）、2023 年度進化経済学会福井大会、2024 年 3 月（単独発表） 【2 件】
⑤その他の公表実績 【0 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

(3)特許等取得

(4)学会活動等
理事（日本農業史学会、2023 年度～現在に至る） 理事（地域公共政策学会、2023 年度～現在に至る）

５．地域・社会貢献活動

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・広報・地域連携チーム（2024 年度～現在に至る） ・1 年生相談担当教員（2022 年度～現在に至る）
(3)学内行事への参加
・高校向け入試説明会（若狭高校、2024 年 7 月） ・探究アドバイザー（武生東高校、2024 年 7 月） ・ふくい企業価値共創ラボ（2024 年 11 月）
(4)その他、自発的活動など